

自立循環型住宅設計講習会 『準寒冷地版』in秋田

秋田県は積雪寒冷地に位置していますが、本県の住宅のうち、約3割が一定の省エネルギー対策を講じていない住宅と推定されており、全国と比較しても暖房に使用するエネルギーの割合が高いため、県では省CO₂型住宅の普及を図っています。

このたび、国土交通省国土技術政策総合研究所および独立行政法人建築研究所を中心とする、大学等研究機関の研究者、27の参加企業で構成される『自立循環型住宅開発委員会第3フェーズ』の研究成果に基づき、一般財団法人建築環境・省エネルギー機構が制作した『準寒冷地版 自立循環型住宅への設計ガイドライン』をご紹介します。

『自立循環型住宅』は、特殊な技術や未完成の技術を用いることなく、一般的に入手できる手法・技術の組み合わせで、太陽光発電等を含めない状態での住宅の生活時のエネルギー消費を50%削減することを目指しています。本講習会では、省エネルギーを実現するための省エネルギー要素技術と設計手法の具体的な特徴と注意点や、住宅全体の省エネルギー効果を数値で容易に計算する方法など、基本的な考え方を中心に、ポイントを説明いたします。

日時	平成25年3月7日(木) 9:30~17:30(受付開始9:00)
場所	秋田県庁 第二庁舎 8階 大会議室
参加費	3,600円(テキスト代として) ※参加費は当日申し受けます。釣り銭のないようご注意ください。
定員	150名(要申込) 申込期限 2月28日(木) CPD 7単位
参加条件	県内に事業所を有する法人の勤務者、県内に居住する個人及び自治体職員
主催	秋田県、一般社団法人 あきた地球環境会議
後援	一般財団法人 建築環境・省エネルギー機構



講習内容

I	自立循環型住宅の概要と準寒冷地の住宅の特性
II	設計のプロセス
III	要素技術 1 - 自然エネルギー活用技術
	1) 自然風の利用・制御 2) 昼光利用 3) 太陽光発電 4) 日射熱の利用 5) 屋根空気集熱式ソーラーシステム 6) 太陽熱給湯
IV	要素技術 2 - 建物外皮の熱遮断技術
	1) 断熱外皮計画 2) 日射遮蔽手法
V	要素技術 3 - 省エネルギー設備技術
	1) 暖冷房設備計画 2) 換気設備計画 3) 給湯設備計画 4) 照明設備計画 5) 高効率家電機器の導入 6) コージェネレーションシステムの導入 7) 水と生ゴミの処理と効率的利用
VI	省エネルギー効果の評価と設計における活用

講師のご紹介

大倉 靖彦 氏

株式会社アルセツド建築研究所 代表取締役副所長

前 真之 氏

東京大学大学院 工学系研究科
建築学専攻 准教授

三浦 尚志 氏

国土交通省国土技術政策総合研究所
住宅研究部 住環境計画研究室 主任研究官

澤地 孝男 氏

独立行政法人建築研究所環境研究グループ長

※講習内容及び講師は変更になることがあります。

※テキストとして使用する"自立循環型住宅設計ガイドライン"は講習会を受講しなければお渡しできません。

お問い合わせ先 | あきた地球環境会議: TEL. 018-874-8548 秋田県ホームページ: <http://www.pref.akita.lg.jp/en-ondanka/>

お申込み用紙・方法は裏面をご覧ください。

